

## 芦屋市環境処理センター運営協議会(11/15)からの意見等

項目	意見等	対応・考え方
環境計画	<p>発電設備による発電量は、災害発生時に商用電源が遮断された場合でも、施設全体の稼働が可能な規模なのか。</p>	<p>想定している電力量は、施設全体(パイプライン施設を除く)が稼働可能な規模です。</p> <p>災害発生時に焼却炉が停止した場合、非常用発電機を使用し2炉のうち1炉を立ち上げた後、焼却に伴う発電を活用して2炉とも運転可能となるよう検討を進めています。</p>
	<p>焼却炉の年間稼働日数は280日であるが、今後、発電設備の点検による休止期間も必要となるため、稼働日数と発電量の関係も整理しながら検討する方が良い</p>	<p>〔施設内設備の点検補修の方法及び所要日数〕と〔発電能力〕とは相互に関連していることを念頭に置き検討を進めます。</p>
災害対策計画	<p>浸水対策のうち確保すべき安全性の目標について、「目標②多少浸水するが施設の機能は維持される」の対象施設として、ごみピット及び灰ピット、また、「目標③浸水により一時的に機能停止するが早期に復旧する」の対象施設として、灰出し設備及び灰搬送コンベアが掲げられている。</p> <p>これらの対象施設が浸水した場合、処理や対応が困難となるため、「目標①浸水させない」に位置付けるべきである。</p>	<p>目標②・③の対象施設について、継続稼働への影響を最小限とするための対策内容を検討して明記します。</p>
	<p>芦屋浜地区の護岸は、県による嵩上げ工事が進められているが、室戸台風クラスの高潮が発生しても、施設が浸水しないような計画を検討してほしい。</p>	<p>想定最大浸水深の被害が発生した場合であっても、施設の継続稼働への影響を最小限とするための対策について検討を行います。</p>
	<p>数年前の高潮による災害発生時、南芦屋浜地区が浸水し車両火災が発生した。</p> <p>こうした事態が生じないよう、旧工場と同様の構造(ランプウェイ方式)が良いと思う。</p>	<p>施設構造は、土木建築工事計画の中でランプウェイ方式または平面式に基づく施設配置計画と合わせ検討を行います。</p>

災害対策計画	<p>非常用発電機について、他の施設事例を調査すると、商用電源のピークカットのためにも使用している。</p>	<p>他施設における使用事例の調査研究を行い、効率的に設備の運用が図れるよう検討・整理を行います。</p>
	<p>災害廃棄物の仮置場は、市域には殆ど無い状況である。防災所管部署と調整・検討を行い仮置場の設定が必要である。</p>	<p>関係所管部署と調整を図りながら検討を行います。</p>
	<p>災害発生時を想定し、ごみ焼却に伴う発電設備の利用可能なEVパッカー車の導入は検討されてきているのか。</p>	<p>焼却により発生する電力を利用することで、焼却炉の稼働やEVパッカー車の充電は可能となります。</p> <p>なお、次世代エネルギーへの転換という国際的な動きについては認識しており、また、各メーカーも車両開発を進めていることから、情勢を注視しているところです。</p>
多面的価値の創出 (『豊中市伊丹市クリーンランド』視察(10/11)に伴う意見)	<p>大規模な施設であったが、資源化施設では手作業による選別が行われていた。</p> <p>また、煙突は、建物内に配置するなど工夫していた。</p>	<p>資源化施設は、破袋や選別の過程で部分的に手作業が想定されますが、自動化・省力化の観点も含めた検討を行います。</p> <p>煙突は、土木建築工事計画の中で、構造・高さとともに配置についても検討します。</p>
	<p>広い敷地(スペース)を活用した施設造りが行われていた。</p> <p>映像設備(技術)を用いた環境学習施設が良い。</p>	<p>施設配置や車両動線の計画を適切に行い、現有敷地を最大限に有効活用することとしています。</p> <p>環境学習施設は、楽しみながら学び、理解し易い、設備導入が望ましいと考えています。</p>
	<p>見学コースを整備して、子どもを対象に「ごみ分別の啓発」が可能な施設計画としてほしい。</p>	<p>ごみの分別や減量化の啓発に寄与する施設計画・設備導入が望ましいと考えています。</p>